

農工研ニュース 59

No.59 2009.1

巻頭言

機関使命の確実な達成に向けて



農研機構 理事（専門研究担当）
農村工学研究所長
小 前 隆 美

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、輸入食品の有害物質による汚染、食品の偽装表示、また穀物価格の高騰などによって、食料供給に関する国民の不安が著しく増大した年でした。そして、国内農業の脆弱化や農村地域の活力の低下が進行する中で、国民に安心を、農業者に希望をもたらす新しい農政への展開を急ぐため、農林水産省において新たな食料・農業・農村基本計画の策定に向けた検討が始まり、年末26日には、農村振興の面でこれを先取りする新たな土地改良長期計画が閣議決定されました。

農工研は、集落機能の維持・向上及び国土管理的な視点を基軸とした地域管理手法、農村における生産・環境資源の保全向上技術、震災リスクを考慮した施設機能高度化技術等の開発研究プロジェクトを推進しつつ、新たな土地改良長期計画の推進に必要な新技術開発に研究勢力を集中し、食料供給力の強化、田園環境の再生・創造、農村協働力の形成に向けた研究を推進します。

また、農研機構では、昨夏に福田総理大

臣の進言で若林農林水産大臣（いずれも当時）の視察を受けた農工研の地下かんがいシステムFOEASを、栽培技術研究として全地域研究センターに展開する計画です。

さらに、今年の農工研は、まもなく完成する3Dドーム型景観研究施設を多くの方々の体験に供しながら農村景観研究を推進し、シンクタンク機能の強化を図ります。また、技術研修の編成と内容を大きく見直し、新しい体系で研究成果の移転と技術者教育の効率化を図りトレーニングセンター機能を強化します。さらに、災害対応その他行政部局からの技術支援要請には一層的確に対応し、ホームドクター機能の向上に努めます。

今年は、農村工学研究所となって4年目、前身の農業土木試験場創立から数えて48年目となります。農工研の職員一同は、これまで培ってきた固有のスピリッツと、蓄積、継承されてきた研究力を活かし、農村振興施策を技術面から支援する研究機関としての社会的役割を果たしてまいります。農工研を活用いただきますよう、お願いいたします。



農村計画部集落機能研究室長
安中 誠司

地域づくりワークショップで円滑な意見集約を促すカード展開型のファシリテーション

意見集約の円滑化を

地域づくりワークショップ（以下WS）では、参加者の意見集約に多くの時間を要し、進行役のファシリテータには専門的な技量が求められます。時間やマンパワーが制約されるなか、結論を予め想定した作業が行われたり、多様な意見が発散したまま論点の絞り込みに至らないことも少なくありません。そこで、ファシリテータ経験が浅い場合でも意見集約を円滑に行える技法を考案し、「カード展開型」と名付けました。

意見集約の流れをシートで事前に準備

カード展開型では、図1のようなステップを踏んで、ファシリテータが参加者に対して段階的に問いかけを行うことで意見を収集・集約し、アイデアの具体化と地図化を促します。そのための事前の準備として、地元との話し合いを重ねながら、具体的な検討テーマを設定し、意見集約の流れを「進行シート」として予め作成しておきます（図2）。ここが、参加者同士の話し合いに基づく意見集約をファシリテータが間接的に支援する従来型のWSと大きく異なる点です。

カード展開型の特徴

WS当日は、進行シートに従い、参加者に対する段階的な問いかけを行い、具体化したアイデアを地図に書き込みます（写真）。班毎に検討テーマや担当ファシリテータが異なっても、意見集約の流れは基本的に同じですから、進行側の技量不足によるリスクの軽減が図られます。

さらに、カードや地図を利用して意見を共有化することで、少数意見の扱いが明確化でき、意見の集約（アイデアの具体化）がどのように行われたかを視覚的に確認できます。

その一方、住民との協働による事前準備に時間を要し、進行シートによって、独創的な発想や柔軟なファシリテーションは制約を受けることになります。そのため、本技法は「事業との係わりで時間的な制約が存在し、地域の抱える問題を住民が具体的に認識しているが、経験豊富なファシリテータが確保できない」という状況での適用が想定されます。

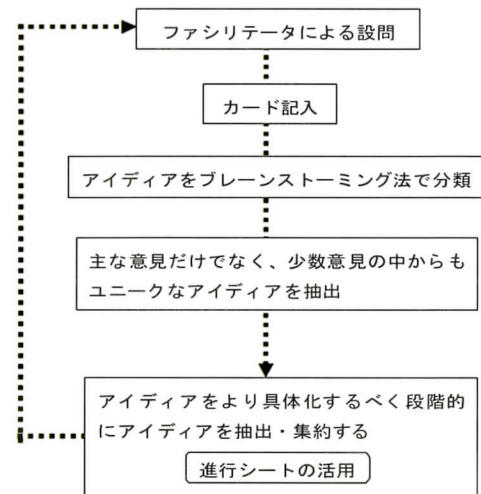


図1 カード展開型での意見集約

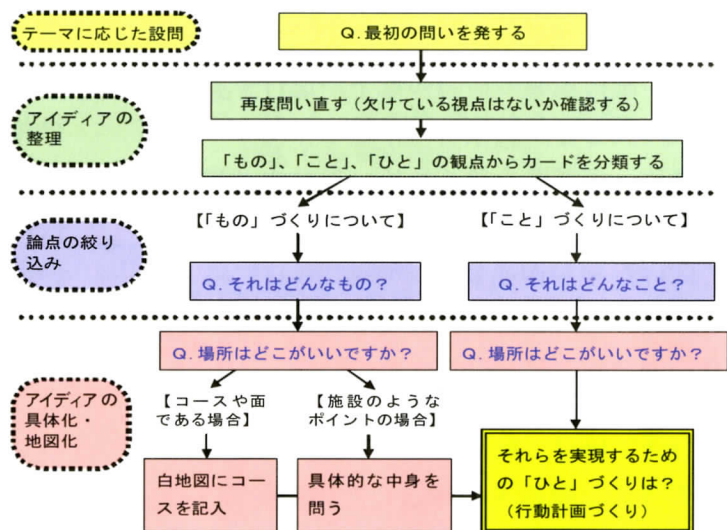


図2 ファシリテータ用進行シート（京都府A地区での例）



写真 アイデアを具体化して地図を作成

日韓共同シンポジウムを開催

10月28日(火)、当所防災研究棟緊急防災対策室において、農工研と韓国農漁村研究院との日韓共同研究のMOUに基づく共同シンポジウムを開催しました。今回のテーマは「バイオマスの有効利用」でした。韓国側からは農漁村研究院生産資源研究所の安 榮泰所長、金 永化計画チーム次長、李 廣野主任研究員および農村自然環境研究所 許 南効主任研究員の4名が来所されました。

シンポジウムに先立つ挨拶では、小前所長、安所長から、特に今後の共同研究に対する期待が述べられました。シンポジウムでは午前中日本側から3題、午後韓国側

から3題の話題提供があり、その後総合討論を行いました。総合討論では、再利用水の利用や日本におけるバイオマス研究の韓国への適応の可能性、両国のバイオマス利用の問題点など広範で熱心な議論が行われました。

その後両機関の担当者で、今後の展開方向を議論し、MOUの確認、今年度の報告書のとりまとめ方法などを議論しました。また、次年度の共同シンポジウムは、来年9月頃を目途に韓国で開催することで調整を進めることが確認されました。

(農地・水資源部農地工学研究室長 凌 祥之)



活発な議論が行われたシンポジウム
(左：金 永化計画チーム次長、右：安 榮泰所長)



シンポジウムの参加者

山田バイオマスプラントの見学者が5,000人を突破

バイオマス利活用システムの実証研究のために、農水省の委託プロジェクト研究予算で千葉県香取市に試作・設置した山田バイオマスプラントへの見学者が、2008年11月17日に5,000人を突破しました。研究で得られた成果と教訓を全国や世界の方々に提供したり、御指導を頂いてきた積み重ねです。

5,000人目となったのは、松戸市の市民グループ「生ごみ資源化を考える会」の皆さまでした。代表の平田 熙(ひろし)さん(土壌肥料が御専門の東京農工大

学名誉教授)に、小前所長からの感謝状と記念品を贈呈しました。

プロジェクト研究は、産学官連携、農工協働で実践的に進めています。今後とも、人と技術と制度をつなげて、それぞれの地域に適したバイオマス利活用が進むよう、研究担当者一同、貢献してまいりたいと思います。

(農村総合研究部資源循環システム
研究チーム長 柚山義人)



記念品を手にした千葉県松戸市の市民グループ「生ごみ資源化を考える会」の皆さまを中心に(後方右端は、山田バイオマスプラントの阿部邦夫場長)

農村研究フォーラム2008を開催

11月21日、秋葉原コンベンションホールにおいて、農林水産省をはじめ関係学会の共催・後援のもと農村研究フォーラム2008「人口減少・低炭素社会に向けた農村地域における資源管理－農村の叡智と資源を次世代に継承する－」を開催しました。

堀江武農研機構理事長、佐々木昭博農林水産技術会議事務局長の開会挨拶に始まり、続いて片木淳早稲田大学大学院教授による基調講演が行われました。さらには風間聡東北大学大学院准教授、上坂博亨富山国際大学教授、北川巖農工研水田汎用化システム研究チーム主任研究員、圓山利男水土里ネット新津郷事務長より、低炭素社会構築に向けた研究や調査事例の紹介および提言が行われました。最後に小前農工研所長による今回得た気持ちの高まりを多くの方達と共有しながら研究に

反映させていきたいという挨拶で閉会しました。
(企画管理部業務推進室企画チーム 折立文字)



基調講演をされる片木淳早稲田大学教授

平成20年度農村工学研究所研究会のご案内

農工所では、研究成果や関連トピックスを広く外部に向けて発信・討議する研究会を毎年開催しております。研究者はもとより、農業農村整備にたずさわる技術者の方々の積極的な参加をお願いいたします。

1. 期日:平成21年3月11日(水)～12日(木)
2. 場所:農林水産技術会議事務局筑波事務所共同利用施設(〒305-8601つくば市観音台2-1-9)
3. プログラム:1日目(10:00受付開始)
オープニング 11:00～12:00
基調講演 鳥取環境大学 三野 徹教授
部別研究会 13:00～17:00
農村総合研究会「食料自給力向上と水田の高度利用技術」
農村計画研究会「地域づくりにおける地域支援型農業の展開」

農村環境研究会「新しい農村環境保全活動と土地改良区の可能性－土地改良区がローカルガバナンスを担うために－」

2日目(8:30 受付開始)

部別研究会 9:00～12:30

農地・水資源研究会「農業情報を利用した地域資源の管理を考える」
施設資源研究会「基幹農業水利施設等の機能保全および安全性確保のためのモニタリング技術」

(下記URL に随時最新情報を掲載しております)

4. 問合せ先:企画管理部 業務推進室(宮嶋・塩野)
TEL:029-838-7678, 7675
Email:nkk-kikaku@naro.affrc.go.jp
URL <http://nkk.naro.affrc.go.jp/index.html>

以下の事項は、当所ホームページ(<http://nkk.naro.affrc.go.jp/>)に「更新情報」から入って、ご覧下さい。行頭の数字は、ホームページにUPした日付を示します。開催日等ではありません。

- 08/11/04 アグリビジネス創出フェア2008に「FOEAS」を出展
- 08/11/10 つくば科学フェスティバル2008に「農村音色検定」を出展し、バイオマス特別講演を実施
- 08/11/18 山田バイオマスプラントの見学者が、5,000人を突破!
- 08/12/08 農村研究フォーラム2008を開催
- 08/12/25 産学官連携ニュースを更新



種別	氏名	所属・職名	業績等	年月日
財団法人農学会 日本農学進歩賞	遠藤和子	農村計画地域計画研究室主任 研究員	中山間地域における農地保全計画策定手法に関する研究	20.11.25

編集後記

新年おめでとうございます。農工研は今年も、「水と土を活かし 豊かな農村をめざして」、試験研究・技術支援を行って参ります。小誌はその一環として、「農工研は今」を適宜お伝えします。皆様の変わらぬ御支援、御鞭撻をお願いいたします。なお、農工研の詳細な情報は、下記のWebサイトをご覧ください。(編集子)

農工研ニュース No.59

2009年(平成21年)1月22日発行
編集・発行 農研機構 農村工学研究所

〒305-8609 茨城県つくば市観音台2-1-6
電話 029(838)8169,8175 (情報広報課)
<http://nkk.naro.affrc.go.jp/>